

城址公園お堀に纏わる 思い出

入部 山下 積（南本町三丁目出身）

高田を離れて五十四年、春になるとお堀の桜が懐かしく思い出します。

私が居た頃の外堀北側には蓮が無く、司令部通りの右側高田高校前面あたりまで蓮があり、旧商工学校前の納豆屋裏あたりに蓮根取りの舟が居ったものです。

旧商工学校も昭和十九年に商科が機械科に、漆工・木工科が建築科と土木科になり校名が高田工業高校になりました。更に昭和二十年八月の終戦で機械科が商学科に戻り高田商業高校になりました。

高田工業高校は城跡内の輻重隊兵舎を改造し移動したのですが、備品、教材、化学薬品等は全生徒が二分割して、大は勉強机小はピーカー一個持つて蟻の行列のように何日も運搬作業が続きました。学校らしくはなりませんが、講堂（体育館の床面は大小凹凸の花崗岩板張り、

正面には木製の幅六メートル、奥行き三メートル、高さ一・三メートルくらいの舞台が置いてあるだけでした。正座なんてとんでもない講堂でした。方や教室と言えば二階建てで廊下を中心に左右二列で間仕切りはしてあるが天井が無く骨組が丸見えの、左右隣の音が聞こえる教室でした。卒業までに講堂は床張りになりましたが二階天井は片手に終わりました。

それでも外堀側の教室北側の窓からは向こう側に女高校の教室を覗き見できるので、測量器具のトランシットやレベルで覗き見して胸をときめかしたものです。一方内堀側には桜花新緑下の水泳、潜りでの菱の実採りの出来る誠に良い環境でした。

とりわけ祖父山下五郎三郎が三千本の桜木の縁起に深く関わっていたことで温かく見守っていました。



（縁起については六月の「お元気ですか」に寄稿致しました。）

その後高田商業高校は南高田駅西方の旧練兵場内五八（こはち）の森あたりに新築移転しました。三千連隊が南新町から南高田町と南本町三丁目に移りました。

浦島太郎のような思いで仲町を夜な夜な徘徊すると、昔あった料亭「ときわは戦後すぐ二階の宴会座敷を床張りにして、長押（なげし）周りの扇・梅・松・亀・瓢箪形の飾灯を赤・青・緑・橙・黄色の電球で飾り、天井にも昔の笠に色電球を付けたダンスホールに変身しました。顔が見えないほどの薄暗い部屋を米兵が出入りしておりました。

「萬粹」「新ときわ」「松月」「錦水」「富士」「八木留」等々が見当たらず、「やすね」「宇喜世」「長養館」だけが分かりまし

た。裏淫しく、景気の良い昔の夢よ今一度？と思うこの頃です。
お堀の話から変なお話になり申し訳ありません。
皆様お元気で活躍下さい。

